

「おいしい！」「楽しい！」盛りだくさん
笑顔あふれた秋のしらたか

9月16日～18日の3日間、しらたかの秋恒例の「白鷹鮎まつり」、「しらたか工芸体験まつり」、「うんまえもの茶屋」が今年も町内各会場で開催されました。

白鷹ヤナ公園あゆ茶屋を会場に開催された鮎まつりは今年で41回目。まつりのメインであるアユの塩焼きをはじめ、食欲をそそる香りが会場全体を包み、来場者はしらたかの秋の味覚を存分に堪能しました。台風

の影響により、残念ながら3日目は中止となってしまいました。2日間ですら約2万2千人が来場。約8千本のアユの塩焼きが来場者のおなかを満たしました。

また、深山地区のどか村で17日～18日に開催されたしらたか工芸体験まつりには、家族連れなど約3千700人が来場。陶芸体験や和紙漉(す)き、子どもたちに大人気の川魚のつかみ取りなどが行われ、

深山地区ならではの体験に子どもも大人も夢中になりました。

さらに、うんまえもの茶屋は、今年もどおりいむ農園直売所としらたか産直愛菜館の2会場で開催。しらたかの秋の味覚を味わうだけでなく、「求める」人が次々に来場しました。天候によるアクセシビリティはありましたが、秋のしらたかは今年も多くの人々の笑顔であふれました。

白鷹トンネルでの事故を受け
県へ早急な事故防止対策を要望

9月6日に国道348号白鷹トンネルで発生した交通死亡事故を受け、9月13日に交通安全対策緊急会議が役場2階会議室で開かれました。

会議には町交通安全対策協議会理事約30人が出席。事故発生について、佐藤町長は「(国道348号は)産業や観光交流をはじめ、高校生などの通学路としても重要。共通認識をもって県に安全策を要望したい」と話し、続いて事故発生か

らの経緯説明と県への要望(案)についての協議が行われました。

また、9月21日には佐藤町長と遠藤幸一町議会議長、田勢秀輔長井地区交通安全協会副会長が県庁を訪問。今回の事故を含め、現場周辺で事故が多発していることなどを吉村美栄子山形県知事へ説明し、緊急要望書を手渡しました。なお、要望書には白鷹トンネル出入口の道路環境及び交通安全施設の整備を依頼する旨の内容が記載されています。



1_ にぎわう鮎まつり会場
2_ 香ばしく焼きあがったアユの塩焼き 3_ 旬の味にかぶりつく 4_ 人気の陶芸体験 5_ 工芸体験まつり恒例の餅つき



1_ 交通安全対策緊急会議の様子
2_ 吉村知事に要望書を手渡す佐藤町長